

イーゴリ遠征物語

悲劇の
ロシア英雄伝

安達也



388/イーゴリ遠征物語

世界の英雄伝説 3

191pp/20cm/四六判

著者略歴

1941年東京に生まれる。東京外国語大学ロシア語学科卒業。東京大学大学院西洋古典学修士課程修了。現在、東京大学教養学部助教授。著書に『ビザンツとロシア・東欧』（講談社）『キリスト教史Ⅲ——東方キリスト教』（山川出版社）、共著に『永遠のイコン——ギリシア正教』（淡交社）がある。

1987年 7 月 15 日 第 1 刷発行

著 者 森 安 達 也

発 行 者 関 根 栄 郷

発 行 所 株式会社 筑 摩 書 房

東京都千代田区神田小川町 2-8
電話東京 (291) 7 6 5 1 (営業)
(294) 6 7 1 1 (編集)
郵便番号101-91 振替東京6-4123

三松堂印刷・鈴木製本

© 1987 T. Moriyasu, Printed in Japan

ISBN 4-480-21103-9 C0397

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが、小社読者係宛に御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

遠征物語

悲劇の
ロシア英雄伝

森安達也

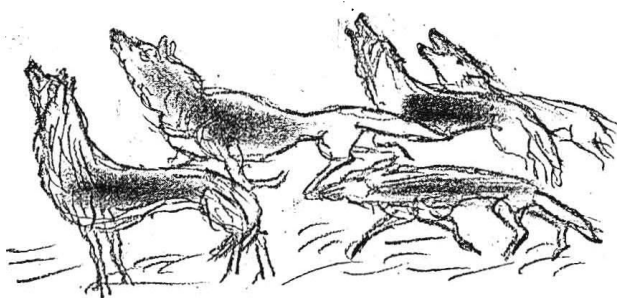


日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

イーゴリ遠征物語・もくじ



I 『イーゴリ遠征物語』の世界

はじめに

ステップの民

黒海は「客あしらいのよい海」か

南ロシアとキエフ

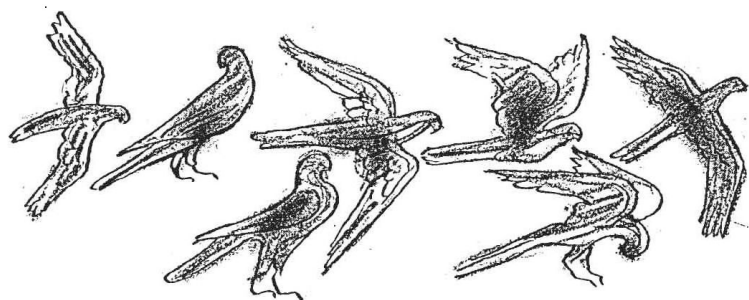
スラヴとノルマン

バルト海から黒海への道

キエフ・ロシアの成立

キエフ・ロシアの拡大

キリスト教的ロシア



II イーゴリの出陣まで^{しゅつじん}

35

五月一日の日食

外敵と内なる敵——ヤロスラフの後継者たち^{こうけいしや}

敵前の兄弟げんか——ボロヴェツ人とロシア

モノマフ派とオレグ派

III イーゴリの行軍と戦争

53

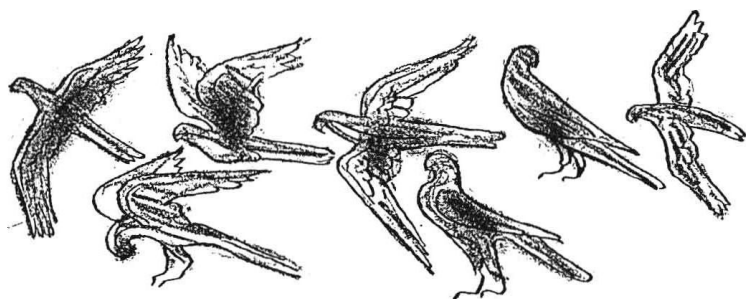
オペラの幕開き

イーゴリの行軍

最初の会戦と勝利

二日目の激戦・ロシア軍の奮戦^{ふんせん}

ロシア軍の壊滅^{かいめつ}



IV 悲報の衝擊しやうげき

キエフ大公の夢

敗北はいぼくの知らせ

国をあげての嘆きなげ

ヤロスラヴナの嘆き

V ポロヴェツ軍の攻勢こうせい

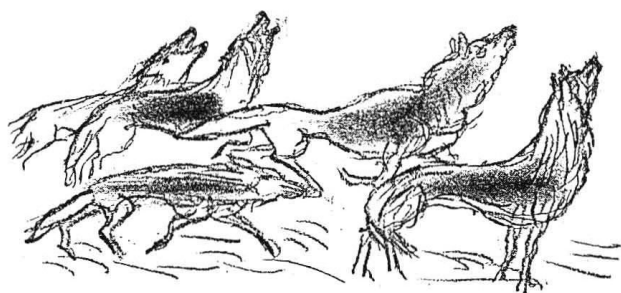
キエフ大公の權威けんい

ロシアの宿命

一致團結いっちのよびかけ

創世紀元と年代記

ポロヴェツ軍の攻勢



VI
イーゴリの脱走と帰還^{だつそう きかん}

135

ボロヴェツ人の踊り^{おど}

脱走の計画

脱走の道行^{みちゆき}

イーゴリの帰還

〈付録〉「イーゴリ遠征物語」全訳^{えんせい}

161

解説

あとがき

188 181

イーゴリ遠征物語



I
『イーゴリ遠征物語』^{えんせい}の世界



はじめに

『イーゴリ遠征物語』の主人公イーゴリは、実在の人物で、ノヴゴロド・セーヴェルスキイという町の侯（支配者）であった。十二世紀もおわりに近い一一八五年にイーゴリは、遊牧民ポロヴェツ族の征伐に出かけたが、武運にめぐまれず捕虜になった。この事件は年代記と呼ばれる歴史書に記録され、さらにこの本で扱う中世ロシアの英雄物語の題材となった。しかしイーゴリは、歴史のうえでは無名の人物といってよく、この英雄物語によって後代に知られているにすぎない。

わが国では『イーゴリ遠征物語』はもとより、その時代のロシアについてもほとんど知られていないので、ここではまず『イーゴリ遠征物語』が生まれた環境と背景をすこしくわしく見ておこう。

ステップの民

ステップ、パンパ、プレーリーなど世界には大草原を表わす言葉がいろいろある。こうい

った言葉を聞いて、思い出すのは、馬にのつて牛を追うカウボーイか南米のガウチョの姿であろうか、あるいは、はやてのように草原を駆けぬける騎馬の戦士たちの姿であろうか。

ステップという言葉はロシア語から出て、ひろく大草原の意味で用いられるが、元来は、ユーラシア大陸の中央にひろがる草原地帯のうち、カスピ海と黒海の北に位置する草原をさした。ステップは雨量が少なく、しかも夏と冬では気温の差がいちじるしく大きい。そのような気候では樹木が根づかない。生育するのは草だけで、それも秋には枯れて肥料となり、黒土と呼ばれる豊かな土壌を作り出す。だからステップは、うまく水が引ければ理想的な耕地となるはずで、事実、この地域は現在では世界有数の穀倉地帯となっている。

古来、ステップは遊牧民が支配権をめぐってあい争った舞台であった。遊牧民という言葉になんとなくロマンの香りを感ずる人があるかもしれない。けれどもそれは、定まった家があつて雨や風、寒さや湿気をなんとか防げる人々の感傷にすぎない。現実には遊牧民は、定住民の想像もつかないほど厳しい条件のもとで生活していかなければならなかった。

遊牧民と農耕民の関係は、もちろん緊張をはらむものであった。農耕民が団結し、自衛のてだてをもっていれば、遊牧民とは交易の関係を保ち、おたがいの利益をはかることができた。しかしいったん農耕民の力が弱まると、遊牧民は交易のルールを無視する。すなわち掠奪に転じて、農耕民の富を力づくで奪い取ることになる。

たとえば万里の長城は、遊牧民が中原に侵入^{しんにゅう}するのを防ぐために築かれた。中国は古来、大規模な治水事業によって典型的な農耕社会を作りあげており、その富は匈奴^{きょうと}をはじめとする多くの遊牧民にとつてたえざる渴望^{かつぼう}的であった。もっとも万里の長城は、「ベルリンの壁」とは異なり、農耕民を遊牧民から完全に隔^{へだ}てるものではなかった。むしろ長城の付近では両者の交流がいろいろあったようである。

さて、目をステップに転じると、そこには万里の長城は築かれなかった。それは、中国とは異なつて、農耕民が遊牧民の天下であるステップにしだいに進出して大小の国を作つていったという事情による。しかも中国のような中央集権国家が確立しなかったから、遊牧民を隔てる長城など想像もできなかった。すなわち農耕民と遊牧民のあいだの距離が小さく、言葉を変えれば、農耕民といえども遊牧民とまったく異なった生活を営むわけにはいかなかった。特に戦闘^{せんとう}の技術は遊牧民から学ばなければならなかったし、また逆に遊牧民も農耕民の文化をいろいろ取りいれていた。

中世ロシアの英雄物語の傑作^{けつさく}『イーゴリ遠征物語^{えんせい}』の背景は、いま述べたようなステップであり、史上何百回とくり返された農耕民と遊牧民の戦争のうちいくつかのエピソードが語られている。